

ウエルシアホールディングス株式会社

2026年2月期 第1四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

2025年7月8日

【業績・取組みについて】

Q：前期、たばこ販売終了と WAON POINT への切替えが業績にマイナス影響を与えていた。ただ、前期の4Qから明らかに業績の改善が進んでおり、何が変わってきたのか。

今後は、元の強いウエルシアに戻ってくるという理解でいいのか。

A：たばこ販売終了の影響については、今期もマイナス影響出ている状況となる。

一方で、WAON POINT については、サービス切替え時の苦戦もあったが、販促強化や店舗の努力によって会員数も増え売上も徐々に戻ってきていると考えている。加えて、これまで課題としていた経費コントロールも前期下期から継続して強化しており、人件費を中心に成果が見え始めている。それらが業績回復の要因となっている。

まだ利益水準としては十分ではなく、今後も新方針の下で取組みを進め収益性を高めていきたい。

Q：これまでコストコントロールについては、課題のあった時期もあったが、店舗あたりの人時数のコントロールが明らかに以前よりも良くなっている。これは今後も持続性があるのか。

A：コストコントロールについては、今後も継続していく計画。前期から経費コントロール継続しており、特に人時コントロールについて生産性向上のためのツールなども導入し取組みを進めている。すぐに効果が出るものもあれば、習熟度が上がることで効果が継続するものもある。今後についても、継続した経費コントロールの取組みで、効果を出していきたい。

Q：販管費の抑制が進んでいることについて、予算差が出た要因は。

A：一番大きな要因は、販管費の半分を占める人件費が計画を下回っていること。

前期から取組んでいるが、特に入退社が多く発生する1Qのタイミングで、人時コントロールが進んできた。それ以外の経費についても、必要な投資は進めているが、トータルでは計画内に収まっている。

Q：現状の WAON POINT 提示率と、WAON POINT 導入でのメリットは何か。

A：現状の WAON POINT 提示率は約60%となっており、Vポイントの提示率よりも高くなっている。今後1to1マーケティングなどを強化する中で、これまで以上にイオン経済圏からのお客様の流入に期待している。イオングループとの連携なども進めていくことで、今後さらに客数アップにつなげていく等メリットを活かしたい。

Q：事業会社の業績について、各社で濃淡がある。その要因と改善策は何か。

A：プレひまわりについては、営業赤字の状況が昨年より続いている。グループインは2021年12月となり地域性を見て実勢を重視し取組みを進めたものの、改善が見えてこなかった。現在は、グリップを強め店舗の改装や閉店など改善に向けた取組みを進めている。前期に比べれば業績は良くなっており、一定の効果は出ていると考えている。今後も改善取組みを強化していく。

ウェルパークについては、昨年9月のグループインから、まだ1年経っていない事業会社となる。これまでのM&Aの経験でも、統合後1年ですぐ改善という事ではなかった。今後改善が見えていくと考えている。

Q：改装が遅れていること、閉店の前倒しをしていると言及があったが、S&Bの方針は当初想定よりも強化していく必要があるのか。

A：今期は既存店強化の方針の下、改装を進めているが、現状では計画よりも遅れている。ただ、年間ではキャッチアップできるよう取組みを進めている。

閉店については、下期計画の前倒しでの対応であり、大きな方向性の転換という事ではない。

Q：直近のインバウンドについて、免税カウンターを増やすなどの取組みを進めていると思うが、売上高の変化はあるか。

A：当社は多くの店舗立地が住宅地にあり、インバウンドの比率は高くなく、全体では1%程度の売上比率となる。一方で、都市部などのインバウンドの多い立地では、売上高の増加がみられる。事業会社のコクミンでは、都市型中心の立地であり、免税売上高は前年からも伸長し業績にも寄与している。

【ツルハHDとの経営統合について】

Q：ツルハHDとの話し合いを進めている中で、感じている課題はあるか。

A：現状話し合いを進めている中で、大きな課題があるとは認識していない。

Q：これまでに経営統合における独禁法の解除、そして株主総会での承認がされた。

統合シナジーの創出の観点では、4月末に規制解除ができ話し合いが進んでいる中で12月の統合当初からシナジー効果が創出されていくのか。特に調達におけるシナジーについてはどうか。

A：統合シナジーについては、現在進めている分科会において、早期のシナジー創出を目指し話し合いを進めている。特に商品調達については、12月の統合後に取引先との交渉を始めることとなる。その為、12月当初から商品調達に係るシナジー創出ができるとは考えていない。

Q：今後のウエルシアの取組みについて、2社で統合に向けた話し合いを進めている中で、ポイントやアプリなどの部分で方針変更はあるのか。

A：現在お互いのポイント施策、アプリなどについても分科会での話し合いを進めている。ただ、現状で決まったものはない。

以上